

議事要旨

名称	阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりに関する意見交換		
日時	令和5年12月25日(月) 18時00分～20時30分	場所	杉並区役所
出席者	○参加者： 阿佐ヶ谷の原風景を守るまちづくり協議会 10名 ●杉並区： 区長、政策経営部施設マネジメント担当課長、都市整備部長、都市整備部まちづくり担当部長、都市整備部市街地整備課長、都市整備部拠点整備担当課長（事業調整担当課長）、都市整備部都市企画担当課長（事業調整担当課長）、教育委員会事務局学校整備課長		
配布資料			
・次第、杉並区出席者一覧 ・阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりオープンハウス資料（抜粋）			
会議記録（要旨）			
<p>（区長あいさつ）</p> <p>本日まで参加の皆さんはオープンハウスにもご参加頂いたとともに、この数か月に及び労力を掛けてこられたことと思っている。区は、振り返る会を3回行った際にいただいた疑問、心配等を受け止めて、対応を考えるという努力を重ねてきた。そのうちの重要な一つは、要望のあったことについてできるだけわかりやすく情報を開示していくことであった。用意した資料も多くなってきて、それぞれが重なっている部分もあると思うが、皆さんはそのいずれもしっかり見てくれている方々だと思う。振り返る会の後、学校関係や地域の方々を中心に情報提供を行うとともに、様々な団体の方々との意見交換を行ってきた。本日もそのうちの一つである。1月後半をめぐって今まで聞いてきた意見を踏まえ、区として、区長として考えを表明していきたい。その際は、その先についても、皆さんと話し合いを続けられるような将来を見せていかなければならない。1月後半までの間も、必要に応じて話し合いを続けることも考えている。</p> <p>（以下、意見交換要旨）</p> <p>○参加者：子供3人とも杉一小出身。杉一小の近隣に住んでいる。振り返る会で意見を言ったり、マイタウン協議会との意見交換にも商店街から出てくれと言われて参加した。区が言い出しっぺなので変えられないというが、本当にそうか、何とかならないのか。マイタウンでは、杉一小の移転より、救急車が通るため道を広げるなどの防災の観点からの問題として、移転が遅れることに懸念を示す意見があった。であれば、杉一小はそのままにして、道路を広げることができないのかと思う。個人的には、今でも救急車の通行もみんな分かっているから特に危ないということはないと思う。杉一小移転後の課題としてジュニアバンドの騒音対策として2重サッシにするなどの説明をしていたが、先日ジュニアバンドをやっていた先生に会ったので聞いたら、今の小学校の場所だから思い切って練習させられたと言っていた。移転したら練習に支障が出る、なぜわざわざ杉一小が移転しなければならないといけないのかと意見が</p>			

一致した。水害や土壌汚染も、区は大丈夫というが、なぜわざわざ対策をしなければならぬ場所に移転するのか。新しく学校を作らないといけないなら別だが。この計画は前田中區長がすべてやったことで、田中區長を訴えてもいいぐらいに思っている。なぜ岸本區長が区民から「なんでできないんだ」と責められないといけないのか。田中區長 5,6 年かけてじわじわやってきて、その尻ぬぐいをさせられる岸本區長を見ているととっても気の毒だ。田中區長の指示のもとだか知らないが、職員の皆さんも本当に大変だったと思う。だから、職員の皆さんも岸本區長と一緒に、区が地権者の方に頭を下げてでも、田中區長が大事な杉並区の財産を申し訳なかったと跪いてもいいぐらいの話だと思う。だから、田中區長が落選したのだと思う。B 案の決定当時、説明会はあったが一方的に決められて、いくら意見を言っても反映されなかった。今、田中區長時代に思っていた疑問が、岸本區長になって表明できたことは良かった。振り返る会も反対の人たちがギャーギャー言って、あまり好きではなかった。何回も話し合いをして良い方向に進める今日のような会の方が良いと思う。

○参加者：追加資料の 5 枚目にもあるとおり、「本計画は、…区が……を行うことを提案することによって開始した」と。この計画の主体が区なので、区の一存で中止・変更できないというのはそのとおりだと思う。その上で、「移転改築計画の直接的な根拠は施設整備方針(2017 年)で、移転を義務付ける法令はありませんが、三者で協定に定めがあります。」と。でも、現地建て替えが決まったのはそのほんのちょっと前の 2016 年。杉一は広くもないので大変、でもうまいことすればなんとかいけるのかと、他区の屋上校庭、公の施設と合同で建てる例を見に行ったりした。しかし平成 29 年 5 月に突然杉一小を病院跡地へ移転すると。計画が変わるときに、保護者や近隣住民は何の相談も受けておらず、それが最初の問題。三者で玉突きにすることになって、パブコメや意見募集や公聴会をやった。公聴会では半分以上が賛成しなかった、パブコメも全て開示させて読んだが、そんなに賛成する人がいたわけでもなく、反対意見が多かったのに、そのまま進んだことが、いまだに納得できない。資料 Q-1 で「現実的にも非常に困難」と書いてあり、困難であることは分からないわけではない。困難を承知で、こんなことはできないんでしょうかといろんな人たちが話をしてきたのではないかと思う。何度も同じことを言わざるを得ない。そこが初発。そこをクリアしないと、前へ進めない。

○参加者：オープンハウスの 5 頁を見てびっくりした。嫌だと思った。この計画をどうにかしたい。3 者の個人共同施行の土地区画整理事業を誰が決めたのか。区長が決めた。杉一小は区の財産なのに、議会を通していない。税理士や不動産屋も言っていたが、病院跡地は著しく価値が低く買い手がいないところのこと。しかも戦前、昭和のはじめからの病院。実際に病院の隣の八百屋のあたりは地盤が沈んだりしている。区長にも見てほしい。本当に等価交換なのか第三者による検証をして欲しい。区が決めたと言っているが、「変更が困難」との見解は法律家の意見もちゃんと聞いているのか。ソーシャルサトコズでも地方

自治についての勉強会をしているが、今杉並区で起きていることを検証して欲しい。どこで誰が決めたのかが原点。本当に変えられないのか、外部の専門家の意見をしっかり聞いてから進めるべき。けやき屋敷は、貴重なみどりやツミヤカエルなどがいて、前区長は屋敷林を保護する旨も言っていたはずなのに、変わってしまった。自然を壊してビルを建てるのは阿佐谷のためにならない。私も杉一小の卒業生。思い出もある。区民の意見を無視して進めてきた計画である。自然林と工事で植えた人工林とは違うものだ。区民の財産が等価交換されているのか、緑のこと、防災の課題のあるところに学校を建てること等も含めて、外部の専門家の意見も含めて検証してから進めて欲しい。

○参加者：区が「困難」と言うのは、今までも繰り返し聞いてきたので、何を言うか分かっている。困難を承知の上で何ができるのかということと一緒に考えたい、こんなことはできませんかという区民からの意見を聞いていただければいい。

○参加者：けやき屋敷のみどりが無くなる時も反対したが、結局変わることはなく、今は病院の移転工事が始まっている。学校については、移転工事が始まってからでは変えられないので、今しか言えないので言っているし、区にも考えて欲しい。なぜわざわざ水害や土壌のおそれのあるところに行くのか、おかしいという素朴な疑問が消えない。杉一小の校庭が広がるというメリットを説明するが、多少大きくなるだけ。計画を変えると時間がかかるというが、耐震工事をやっているのだから大地震が起こっても死なないだろう。変更・中止は困難、損害賠償という話もあるが、我々が何かできることはないだろうか。阿佐ヶ谷でずっと暮らしてきて、無関心ではいられない。区長を矢面にしないで、細かいことは担当職員に答えて貰えばよくて、区長には答えさせないで。それが自分が区長を守る手段。

○参加者：5代前から杉一小出身。自身が住み始めた頃阿佐ヶ谷は静かで便利な場所と感じていたが、震災時の避難場所は練馬区の光が丘、絶対歩いて行けないと言われた。それで防災に目が向いた。その後国の基準は広域避難場所は3km圏内と変わった。阿佐谷北や高円寺北、天沼には広域避難場所となる広いスペースがない。区の職員はご存知か。都や区の施策では、区の木密地域の対策として、延焼遮断帯となる広い道路と、いざというときに逃げ込める公園を必要としている。不燃化特区の範囲に限るが、公園として用地買収も行っている。公園には防災の機能があるが、阿佐谷北、高円寺北は一人当たりの目標公園面積にも大きく届いていない。病院跡地は公園にして欲しい。公園の話をしたいの、なぜみどり公園課や環境課の職員が同席しないのか、以前も指摘したが、果たされていない。区の南部は公園が増えているが、この地域は増えていない。減っている。環境課の方はこれをどう思うのか。阿佐ヶ谷北の広域避難場所は善福寺川緑地和田堀公園になった。その後平成30年に出した区の地震被害シミュレーションによれば、危険地帯である。馬橋公園は拡張されているが、高円寺北、阿佐谷北の人が全員逃げ込める広さではない。どこに逃げればいいのか。在宅避難か。でもこの地域は大規模火災が発生する可能性もある。

最悪の場合火災旋風となって逃げられない。今の杉一小は延焼遮断帯である中杉通り沿いにあるが、移転後は木密地域の真っただ中になり、移転後の杉一小近隣で火災が発生したら、中杉通りまで避難することとなり、避難距離が増える。「振り返る会」でそれを指摘したところ、その件は検討が必要との答えだったが、検討してくれるのか。そういうことも考えて杉一小改築を考えて。100年後を考えて検討して欲しい。みどりはSDG'sの観点からも単に植えれば良いということではない。みどりと防災課の職員が同席しないのはなぜか。その回答だけほしい。

- 杉並区：所管の者がここにいるのが一番いい形だとは思う。
- 杉並区：振り返る会では、みどり施策担当課や防災課が出席していた回もあった。参加者からの個別の突っ込んだ意見と区の出席者の組み合わせがうまくいかなかった。
- （区長）：防災について多く意見を頂いているが、8月及び10月の振り返る会以降、区側で今考えていることはあるか。
- 杉並区：令和5年度の一人当たり区立公園面積は区全体で1.17㎡、阿佐谷北地域では0.41㎡となっている。災害時の避難スペースとしては、公園だけではなく、学校の運動場も含めてパブリックスペースとして確保していくという考え方もある。
- 参加者：学校の移転が決まっているなら、なぜ意見を聞くのかという疑問がある。ガス抜きなのか。建築などの専門家も入れて良い計画が再考できないか。土地の交換が等価交換になっていなくて、区民の財産が損をしているという試算を出した方もいる。区が困っている建築家だけでなく、良い建築家を集めてもっと良いプランを。
- 杉並区：防災の面では消防活動の困難区域解消のため、道路の拡幅も課題の地域。今回の道路拡幅によって650棟程の困難区域が解消される。馬橋公園まで道路拡幅の計画があるが、出来るところから進めていきたい。
- 参加者：道路の拡幅は、杉一小の移転に関係なくやれば良い話。道路の拡幅は五差路まで届かないのでは、意味がないのでは。
- 参加者：杉一が移転しなくても道路拡幅はできるのは事実。学校があるから拡幅するわけではない。学校が移転しないと何もできないみたいな話は嘘。
- 杉並区：学校の移転を大前提に土地区画整理事業をやっている。杉一馬橋公園通りの拡幅は道路整備事業で実施するが、三者間では区画整理事業や地区計画などと一体のものとして実施してきている。杉一小とけやき屋敷の間の2号線、けやき屋敷と病院の間の3号線については区が整備するのではなくそれぞれ病院や地権者が負担して整備する形となっている。杉一馬橋公園通りの拡幅自体が区画整理事業に含まれていないからと言って、今になって道路の拡幅だけ取り出して杉一小の移転とは無関係ということにはならない。
- 参加者：学校移転を変えるつもりがないなら、今やっていることは全くの茶番。ガス抜き以外の何物でもない。
- （区長）：今あるものが変えられないのかということに関して、今区の状態は、過去に

決めた決定を白紙に戻していない。白紙に戻していない中で、過去の意思決定とそれに基づく協定は区から杉一小を移転させてくださいということで始まった取り組みなので、計画を変えるならここから全部を変えなきゃいけないということ。それをやるには、今まで作ってきた協定を失効しなければならないし、三者が全員同意しなければいけないということ。それをできるかできないと言ったら、とても困難。今までやっていることは全部茶番なのかというのが、私も職員も全然そうは思っていない。振り返る会から今まで何度もいろいろな話をいろいろな人、いろいろな立場、角度から聞いているけれども、お話を聞くことによって、この先の防災のことをもっと綿密に長期的に正確に考えていかなければいけないという認識を明確にもつことになった。水害の心配があることはよくよくわかっているのに、学校の跡地になる A 街区において、ここがどういう形となるにしても、水害のときには避難場所として使えるような形に、これからみんなで決めていくときにそういう計画を考えなければいけない。すでにこの前の杉一小保護者の会の際にそういう議論をした。火災のときに、延焼遮断帯をつくるか、逃げ場所をつくるということについて、まず道路が広くなることは大きく寄与する。残りの道路をどうするかや、公園そのものが少ないという課題は依然としてあって、これに対しては、今回の話し合いを基に、高円寺北、阿佐ヶ谷北東地域に公園の用地を買うことをもっと真剣に考えなければならないということになるかもしれない。そういうことを総合的にやっつけよう、小学校が移転して建物をどうするかということだけではなくて、5年、10年経っても区が責任をもって、学校で問題があったときに学校任せにしないで教育委員会事務局として区長部局としてもきちんと向き合って解決していくという長期的なコミットメント、責任を明確にするというところも、前回の保護者の方たちと話した。このように、皆さんの意見が区のよりよい計画を作ることに役立っている。区の責任を、次のときにもっと明確にしていけると思う。皆さんから聞いていることは、何一つ無駄なことではない。

○参加者：来ている皆さんは、水害のこととかいろいろな問題があることを言っている、それはすべて杉一の移転に問題がある、という話をしている。つまり、杉一の移転は最終的にどこかで結論を出さなければならないと思うが、少なくとも100%決まったことじゃない前提で話しています。

●（区長）：それはそうだと思う。ただし、かつての意思決定は変えていない。

○参加者：その上で、いろいろな問題があるが、今問題になっているのは杉一の移転。だからこそ残って、区長と話をしている。防災、緑、水害、いろいろあるけど、その中心にあるのは、今C街区に杉一が移転するのかどうかという問題で、しないでほしいとみんな言っている。そういうこともできるんじゃないんですかという提案をしに来ている。区長が話しているのは、杉一小の移転に関わらない街の共通課題であることはわかる。前提にあるのは、杉一の移転を止める、もっとうまくやり方はないか、という話。この計画の最初からビルトインされているから、もう止められないと言ってしまうと、それは事実とは違う。

とても困難であることはわかる。でも、可能性はないのかと言ったら、可能性がなくはない。ここで皆さんがした説明とも違う。とても困難なものも分かる。とても困難だけど不可能とは言っていない。だからそこにみんなは望みをかけて、今日区長とお話をしたい。「いろいろ役に立つ」ために来ているのではなく、今すぐに結論出せとは言わないが、杉一を移転することでこんな不利益があるじゃないかとか踏まえて、今の場所でなんとか再建できないのか、ということと一緒に考えるために、可能性はないのかということを考えるために今日来ている。今日ここに「決まったことだから変えられません」と言う方がいれば、もう話す意味がない。1%でも2%でも考え方を考える余地があると信じているから、みんな来ている。

○参加者：今区長が意思決定を変えていないことを前提に話しているが、意思決定を変える事も模索してほしい。

○参加者：三者の同意を得ることは非常に困難なことはわかりながら、困難さを乗り越える方法がどういう風にあるのだろうか。その困難さを乗り越えられるとしたら、杉一が今の位置にあることで、公園を増やすことや防災の問題など、杉一が道路の前、高台にあることで、クリアできる問題がかなりある。

●（区長）：意思決定が行われたとしても6年前ならできたのではないかと思うところもある。その後の6年の間には民意を問う選挙があつて、そこでの民意は示されているが6年前には戻れない。変えることの困難さは6年経ったことで高まっている。これを変えるために、過去の合意・民意を変えるだけの力技はすごく困難。

○参加者：私は谷間のところに住んでいる。2階なら大丈夫とかそういう問題ではない。盛り土してそこだけが高くなっても、地域の人には泳いで避難しろと言うのか。昨年、他県では線状降水帯で児童が一晩帰れなかったことがあった。そうした問題があることが分かって学校を移転するのはおかしい。決めたことだから変えられないというのはおかしい。区長が関係者を説得するのは難しいのはよく分かる。ここにいる人は本当は区長の応援団。区長が決断して「変えます」と言ってくれれば。

●（区長）：皆さんと同じ意見の方ばかりじゃない。

○参加者：弁護士を雇って徹底的に区のことを調べてほしい。何が起こっていたのか調べてください。疑問に思っていることがたくさんある。区長が大変なことは分かっている。でも、それをやってもらうために、区長を当選させた。

●（区長）：みなさんの気持ちは良くわかるが、みなさんの気持ちだけで、私が判断できないこともわかって欲しい。

○参加者：そこに問題があるということを調べてください。

●（区長）：全く問題がないとは言っていない。区から出している資料でもそこは認めている。今時間が戻れるのなら、違うようにできると思う。これからの区政はここから色々なことを学んでいくしかない。当時の決定を覆すだけの、総合的に判断したときにどうかということが問われている。

○参加者：総合的に判断した内容を区民に教えてもらえないのでしょうか。

- (区長) : それはちゃんと示します。
- 参加者 : 困難なことをやった場合には、こんな風なことでいくらお金がかかるとか、これだけお金をかければできますという案もあって良いと思う。そういう案をもう一つ提案してもらえたら、みんな考えられるのに。
- (区長) : それはすでに出している。
- 参加者 : 病院跡地というのは二束三文。土地は等価交換なのか。区、区民の財産が減ることだから、検証して示してほしい。
- 杉並区 : 病院跡地が二束三文であるというのは、何か調査などをした結果か。
- 参加者 : 普通そうでしょ。常識でしょ。駅前と病院跡地は全然違う。
- 参加者 : 専門家に調査してもらったものを出してほしい。今検討するのではなく。区の職員系でやるのではなく、第三者にやってもらって出してほしい。
- 参加者 : 病院跡地に学校を建てた事例があれば教えて欲しい。
- 杉並区 : 何千件、何万件あるかという、ない。数は多くないが、沖繩、箕面市など計画が進んでいる事例はある。
- 参加者 : あるなら、見に行ったり、その地域の人に話を聞きに行きたい。病院跡地に学校はあり得ないと思っている。掘削はするでしょう、嵩上げすればいいという問題でもない。釘が出てきた事件もあったし。できるなら子供たちの暮らす場所は、地主がここが一番高くていい場所だと言ってくれたあの場所にこだわりたい気持ちがぬぐえない。様々な困難は百も承知で、子どもたちの未来のためにこだわり続けるしかない。区長の苦労もよく分かる。6年前なら…、4年前、前回の(区長選の)ときは何も見えていなかった。
- 参加者 : 田中区長はこういうこと(杉一移転のこと)を一言も言わないで。だから、民意を…と言われても、う〜んと思う。他区では、病院跡地に学校を建てるのを断念して公園に計画を変更した事例もある。情報を調べてください。
- 参加者 : 港区では、都市区画整理しておいて、東京ガスの跡地かなにかで、汚染物が出て、学校建築をやめた。別の土地に移転した。
- 杉並区 : これまで様々意見をいただいているが、みなさんは杉一小の機能の全てをA街区に残して欲しいのか。一部を残して欲しいのかどちらか。
- 参加者 : そこをまさに対話でしたいところだ。どうしたいのか。今までのことをひっくり返せと皆さん仰っていない。区画整理やめろとか道路整備やめろとか言っていない。今の区の権利の中で何ができるのかという話をしたいと思っている。地権者さんと協議の上、A街区に校舎の一部を作れないか、保護者の方は全部と言っている、そういうことも含めて100%は無理でも何割かはできないのか、そういう話が前向きな話。そういう話をしたい。
- 杉並区 : オープンハウスでも同様の話があり、完全なものをA街区にそのまま残すのは難しい、だったら学校はC街区にあったとしても、例えば一部の機能をA街区にとか、もしくは逆とか、そういうことを譲歩策じゃないけど、お互いに話し合っって良い案を出していけるような話し合いができるとよいという話を聞いた。
- 参加者 : 8月の振り返る会では、区からの説明で、C街区への小学校の移転が法的に

決まっているわけではないということ、A街区に小学校が入るのはダメだということが法的に決まっているわけではないことを、皆の共通の了解として聞いたのが成果と感じた。何を言っても無理なら徒労。困難だが可能性が全くないわけではないということ(区が)言ってくれたから、1%の望みにかけて話をしに来ている。でも、話をしても、今までも度々変えられないと言われるというのが繰り返されている。困難だが法的に全くだめだということはないし、現実的にA街区に小学校をとというのが全然無理ということはないし、可能性があることが分かってきて、じゃあ何ができるかを一緒に知恵を絞りたい。そういう話し合いが続けられている中で、この資料の5pのような書き方をなぜするのか。関係者の同意なく一方的に破棄してほしいとは誰も思っていない。裏から読むと、関係者で話し合った上で、三者で合意して移転を取りやめた場合は違反にならない。そういう交渉を三者の間でやってほしい。区民の立場からは、この書き方は、毎度毎度脅迫されているように感じる。話し合いをとということなら、途中でこういう出し方はやめてほしい。換地の公平性に関して、税理士が数字を出しているの、その数字が間違いなら間違いと言ってくればいいし、専門家が計算しているものに答えてほしい。区民の財産があまりにも不公平に交換されているようなら、もしそれが法に触れるものでなくても、区民への迷惑なので、時間をかけても数字をきっちりやってほしい。

○参加者：私はまた機会があると思うのですが、私の家は阿佐ヶ谷北4丁目。阿佐谷らしさは文士村。庶民的な温かさ。原風景の会でも、昔のNHK特集の新日本紀行を見たが、阿佐谷の特徴はそうしたものだ。そういったものを町の資源として、お金にかえるとものすごい価値になると思いますが、実際にはお金で取引されないのが市場には出てこないのですが、社会資源として確実にある。それを守るってことがすごく大事。特に公共の立場としては、それを守っていく立場であってほしい。戦後から作り上げてきた阿佐ヶ谷らしさ、そんなに簡単に失っていいはずがない。特に小学校というのは単なる学校というものではなくて。昔どうやって小学校を配置したかと言うと、昔の近隣街区(ネイバーフッドコミュニティ)の概念で、コミュニティの中心に一つずつ置いていこうという風に作ったものですから、小学校はコミュニティの宝物。それが大阪の池田小事件からなかなか入れなくなって窮屈になっているんですが、本当はコミュニティの宝物。そんなに簡単に動かすっていうことは、…相当な重みをもっている。公共財として社会資源としていかに阿佐ヶ谷のために使うのかということとは相当喧々囂々としなければならなかったし、まだ残っている時間があるのならこれからでもするべき、ということが前提としてあると思う。6年前ならできたかもしれないと仰るけど、まだまだ。というのは、6年前の話は区画整理事業の要するに地べたを交換しますよという話だけで、上物についてはこれからですよというように我々は聞いていました。土地利用をどうするのかというのは、ある程度予想を立てて地区計画が作られましたけど、実際には作るものによって地区計画を変更することもできますし、上

物についての議論はこれからだと聞いていましたので、まだまだ余地はあるわけです。実際に事例も挙げられます。公共財としての重みというのを原点に考えていただきたい。例えばA街区、B街区、C街区をどう使うかという話がそれぞれありますが、AとCについては、まずはC街区は、櫛屋敷をほとんど失ったわけですから、でも区の方のご尽力である程度の緑地は確保することができまして、それも我々の市民運動がある程度あったから。それでも失ったので、その部分を新しい土地で再生するという考えをもっていたかかないと。C街区は、もし学校をつくるとしても、まずは森。森の中にある小学校くらいのキャッチフレーズが欲しかった。それがなくて、「防災上よくなる」とか言われても全然ピンとこない。ここまで災害の話が出ているのに。或いは「校庭面積が広がる」確かにそうなんですけど、今だって杉一小の校庭の有効面積は1000平米しかない。小中高あわせて500平米しかない私立の学校もある。1000平米あるだけでも相当良い。それを増やすから河北病院跡地に持って行かなければならないというのは、ピンと合わない。それよりも大事なものがあるんじゃないんですか、と皆さん思っていると思います。技術的な話はまた機会があると思うので。

- 杉並区：森の中の学校とあったが、自然を取り戻すとか、良いものが生まれるんだというビジョンがあると良いと感じた。
- 参加者：なぜ杉並区は個人共同施行や換地という手段をあえて選んだのか。合法ではあるのだろうが、民主的ではない。区民をシャットアウトして計画を進めてきたということがある。そのことを変えてほしくて岸本区長を選んで対話がはじまったが、やっと扉が開きました。じゃあ対話をしようと思ってこうしたら、扉は開いたがすぐ壁で、入れない状態。なぜ民意を得られないやりかたを区はやってきたのか。その結果として今意見が噴出している。振り返る会、オープンハウスでは、賛成の方はほとんどいなかった。それはここに来ていないだけで賛成している方がいるということであれば、そうなのかもしれないけど出てくる人はいない。それで変更が困難という説明だけでは納得できない。子どもにどう説明したらいいのかと言った保護者もいたが、子どものこと、教育のことが蔑ろにされている。懇談会でいったん現地建て替えが決まった後に変わった。不透明なプロセスで。それをいったん精査してクリアにしないで話を前に進められるとは思えない。個人共同施行、換地などの今までのプロセスは民意に反している。振り返る会でたくさんの疑問や反対意見が出た、資料の間違いが指摘された、でもオープンハウスでは間違いのまま展示されたのも多かったのはなぜか。困難の理由をつぶさに説明してほしい。そうでないと誰も納得しない。
- 杉並区：区画整理や地区計画など、プロセスやこの間の説明については、それぞれの所管が自分の範囲でのみ対応してきた結果、区民からするとわかり難くなっていた。それは区としても反省しているところである。
- 参加者：学校の移転の話なのに、まちづくりの話にすり替えたのはなぜか。
- 杉並区：移転が計画の根幹ではあるが、それらを実現するための手法として、地区計

画などの制度をつかってきた。議会の議決や民主的手続きを避けるために個人共同施行を選んだわけではなく、学校の移転と道路拡幅などを実現するために費やす時間と財政面を考慮したとき、最善の方法として選択した。区としてその手法をとった理由の説明等が不足していたと思う。区議会に対しては何かをやる時など必要な報告をし、また予算という形で議決をいただいていた。区としてはこれまでの間にも必要なプロセスを積み上げてきたつもりだが、それが十分と感じる方と不十分と感じる方がいる。そのやり方自体がもっと工夫ができたのではないか、違うやり方があったのではないかというところが、今反省している部分。今後、どういうやり方だったら納得できるやり方になるのかを考える事がこれからのこと。

○参加者：今の区の説明は移転ありきの説明をされていますよね。僕はその前の現地建替え案もあったのに、それがいつのまにか移転にすり替わっているそうゆうこと。

●杉並区：納得するかどうかは別ですが、B案の検討に至るプロセスについては振り返る会でも説明したし、主な質問と回答にも書いてあるとおおり、区として二者の方から話を受けて、それを区としてもそれに乗っていくかたちをとれば、もっといいことができるのではないかと思って…。

○参加者：二者から話を受けたのか。区から話をされていないのか。

●杉並区：二者からけやき屋敷に病院を移転する話を受けて…。

○参加者：区から話を持って行ったのではないのか。二者の方へ。

○参加者：今日の資料には「区から出した」と書いてあり、話が違う

●杉並区：区から、平成28年に…。

○参加者：言うことがころころ変わるんで…

●杉並区：二者から話を受けたことをきっかけに、…

●杉並区：ちょっといいですか…

○参加者：ちょっといいですか。そうゆうふうに、話がころころ変わるから信用できないのでちゃんと検証してくださいと言っている。

●（区長）：変わってないですよ。

○参加者：さっき別の参加者が言った第3者で検証してほしい。

●杉並区：皆さんが「検証してくれ」と仰っているが、皆さんにとってのこの経緯はなんなのですか。皆様にとっての受け止めは。

○参加者：プロセスに問題があるってことは区も言ってるじゃないですか、それはいいんですよね。受け取り方が違うという話ではない。

●杉並区：過去のプロセスに関して反省している旨は申し上げているとおおり。

○参加者：プロセスに問題があったと認識しているのなら、なぜ見直さないのか。

●（区長）：そういう認識に基づいて今まで不明瞭だったことをきちんと検証含めて外に出していくってことを半年間やってきた。これをやらなければ区民の間にこれらの資料は存在しなかった。議員ももっていなかったものもいっぱいある。皆さんの疑問に答えるには、これを見せないといけないと、ずっとそれに向き合ってきたつもり。それを最大限やるのが、必ずやらなければいけないこと

とっていたし、そのことを分かっていただきたい。今の時点で区がもう一回地権者と新しい合意を作ることは難しい。難しいということにも、根拠がある。それはできれば部長からも言ってほしいと思っています。就任直後から区役所の中でずっと言ってきました。それが実現しないことに対して自分として苦しい思いもしてきたが、部長たちだけではなくもっと別の幹部からも言われている。どうしてそんなに困難なのかということが結構わかってきたこともある。自然科学でないので、数値で数式で表せるものではない。これだから無理なんですと数式的なものを出すことはとても困難。

○参加者：むしろ、そこは説明は求めてない。どうして困難なのかより、岸本区長になってこういった話し合いがもたれるということ自体が本当に素晴らしいと思っている。岸本さんだからできたみんな思っている。少なくとも私は、過去の経緯を変えてくれとかそんなことはできないし望んでいない。区長も仰ったけど過去を変えることはできない。だから今できることは何なのという話をしていければいい。上物については区の権利の中で考える余地がある。それを話したい。岸本さんがせっかく開いてくれた話し合い、話し合いの扉を開けてくれたところでできることはそれ。土地区画整理をやめろとか全部白紙にしろとかそんなことは言ってない。言ったってもうできないし、やろうとも思っていない。そうじゃなくて、今できることは何なのかなと。A街区、C街区両方にもっている区の権利の中で何ができるか。或いは地権者さん、病院さんと相談しながら、両方の権利をうまく使ってできるだけ良いものを作る、そういう話ができればそれで良いのであって、計画をひっくり返そうとか、反対派とか言われるのは心外だけど、全然反対派じゃなくて前向きな話をしたいと思っている。区長の立場からすれば、実際二者にその話をする事自体がすごく難しいことであるのも分かる。だから今ここでやりますとか絶対言えないし、むしろ難しいなあと思って聞いていらっしやると思う。だけど少しでも可能性があるんだったら、さっき1%でもと仰ったけど、それを区民と行政とで共有して同じ認識に立って、これが今できる一番いい学校だよねというのをみんなで作っていく、それをやりたい。返せ戻せとかという話じゃなくて。それは岸本区政だからできることだと私たちは思っているし、だから岸本さんを選んだんだし。本当に厳しい立場に置かれているんだろうなってことも、私もずっと想像している。さっき吐露してくださったように、厳しさがどんどん迫ってくる中で執務されているのもよくわかっているし、だからこそ、今できることをみんなで考えましようと言いたい。今までやってきたことをひっくり返すとかそんなことではなく、且つ地権者にとっても病院にとっても良い案になるように、そして何より杉一の子供たちのために良い学校になるようにというのを。今あるC街区移転が一番良いのかというと、そうは思えない。だから、そこで何ができるのかを考えたいと思っている。私も区長に感謝もしているし、区長の苦勞も少しはわかるつもりだし、そういう中で岸本区長だからできることだと思っているから、そこを住民と行政と一緒にあって区長と一緒にあって良いものを作っていければと。一歩でも二歩でも、みんなが、こう

いうこともできたねって思えるようにしたいなど。それ以上のことは思っていないです。ひっくり返そうとか、過去の経緯もいろいろある。だけど、それを岸本さんに何とかしてもらおうとか、区長なんだから責任があるんだからとか、そういう風に言うつもりはないです。これからできることをみんなで考える。それでいいんじゃないですか。その中には、A街区も利用した学校という考え方もあるということだと思ふ。

- 参加者：先ほど課長もA街区に杉一校舎を残す話もしてくださって良かった。杉一跡地には何割かは区のもの。そこに校舎を残すこともできる。そういう方向で良いプランができるし、病院跡地には校舎のほか緑の公園があり…という方向性で考えてほしい。お金のこともきちんと検証を。
- 参加者：区画整理区域内に道路2本も要らないのではないかと。杉一小が今の所で複合化でいくのなら、その脇の神明宮に行く道は人が歩ければいいだけ。そこも校庭にすれば広くなるのに。
- 参加者：資料7ページに、現地改築の場合があるが、現実的なのは複合化して小学校を建てる案ではないか。現地建替は非現実的で誰も要求していない。小学校単独をシミュレーションしてみた意図は何か。一方、現実的にA街区に複合で小学校を入れてほしいが、その案が資料にない。
- 杉並区：振り返る会などで、校庭面積や近隣建物からの日影の影響を懸念する意見があったため、A街区で学校に最も有利な条件で建てた場合を検証する目的で描いたもの。A街区に小学校だけを作ってもこんな感じ。複合化すれば、更に高くなり、日影の状態などは更に悪くなる。校庭の広さ、日陰の問題をC街区に単独で移転改築する場合との比較のためにつくった。複合案を出していないのは、学校にとっては有利側ではなく不利側なので、作らなかったということ。
- 参加者：現実的なのはA街区に区が有する27%の権利を使って複合化することなので、そうした案も検討してほしい。27%の権利のところ小学校に入れるとして、三者で話し合いをしたら、地権者は反対しないのではないかと。具体的に検討に値することではないか。
- 杉並区：学校がA街区とC街区に分かれるというプランということか。A街区にある3割弱の中に、学校が全部入るのは難しいと思うが。
- 杉並区：資料17ページ。A街区の容積率いっぱいを使った場合、区の持ち分は7000㎡。7000㎡名ら、小学校の標準面積に近い。使い切れれば、区の持ち分で学校は可能となりますが、以前、模型で説明したように、高い建物の中に学校がどういう風に入り込むか、あれだとグラウンドをとれる状況にない。この検証は区だけでとりあえず検討したもので、26,000㎡のうちの7,000㎡を学校にするというのは、やってみないとわからない。26,000㎡の設計というのは簡単にはできない。
- 参加者：やってみてください。
- 杉並区：6ページ及び7ページも大前提にあるのは、三者での合意をした場合で、合意ができるかどうかの実現可能性は考慮せず一つの考えとして示している。

合意したうえで、敷地の持ち分に応じてそれぞれがバラバラにやるならば、どのような使い方をしようと干渉しないことになると考えられる。だが、合築して敷地持ち分に応じて延床面積を使うということであれば、どういう使い方をしたいか、設計・工事をどのようにやるのか、どちらがどのように費用負担するのかなどを、お互い調整した上ではじめてできることになると考えられる。そのときに、区は学校を建てるとなると地権者から意見が出るのが考えられる。これまでの経緯として、土地区画整理事業や地区計画などは、区が学校を移転させたい、そのためにこういう手法で、他にもこういうことを一緒にやっていきたいと思いますと提案してスタートしているという大前提がある。皆さんがそう考えなくても、関係者間の前提がそうあれば、その部分を変えるということ自体が全てをやり直すのと同じということ。

○参加者：そうすると経緯の話に戻ってしまうのであまりしたくないが、学校改築検討懇談会の皆さんが全く知らないところで B 案に変わった。つまり、区が言い出して B 案に変えてもらったと仰るけど、学校の一番大事な CS の人たちや改築懇談会の人たちは知らなかったわけ。

●杉並区：当時は説明したが、記憶にないということかもしれない。

○参加者：それはすごく失礼。案内もらっていないと言っている人が少なくとも 3 人はいる。だからそれはあんまり繰り返さないほうがいい。だって電話でしょ、証拠残ってないでしょ。本人が受けていないと言っている、それは否定できない。だけど、区がこういう風にしたいと言った。そういうことがあったんでしょね。それは学校の人たちが関与していない。だから、今になって CS の人たちが移転には反対だと仰るし、保護者の方々も、「え移転するの。それは。」っていう人も出てきている。だから、学校がこっちの土地の方が良いからお願いしますよ田中区長と言って変えたんだったら、それは言うとおりの。けどそうではない。学校の人たちが改築検討懇談会も CS も、なんだか知らないけど、こんな風に決まったんじゃないのって言ってたのに、移転に変わってしまった。だから、学校の人たちが今になってそれは違うよって言いだしている。それは確かにその話を地権者さんや病院さんに、いや実はって話するのは行政の方にとってとても大変なことだと思うし、とりわけ区長にとってはご自分はいらっしゃらなかった時の話でもあるから、大変なことだと思う。けど、一番大事なのは学校関係者の意思だと思うので、ここに居るのは OB や近隣の方だけど、現役の学校に関わっている方、保護者が「ちょっと待って、おかしいんじゃない」と言っている以上は、それが区民の意思というか学校側の意思だとすれば、それを今こういう状況でこういうご意見が出ていますと、区としてももう少し検討を加えていきたいということ、地権者の方、施行者の方々にお伝えしていくのは、それはやっていただきたいこと。それは区長がやることでしょとかそういう風に言わないで、区長はもちろん責任者だけど、それは実務者の皆さんが汗かいて、学校の皆さんがこうしてほしいと言っていることを実現するために区長のもとで協力してやっていただきたいと思う。そして区長を支えていただきたい。数年前にそういう話があっ

て区から言い出してこうしたんですって、それはそうでしょう。だけど今言ったような経緯があるわけだから、そこは食い違いもあったわけじゃないですか。そのことにも反省をしていただいて今後どうしていくかっていう話し合いのときには、学校のことを第一に、地権者や施行者会の皆さんにきちんと話をさせていただく、ということをお願いしたい。それが行政のお仕事じゃないんですか。

●杉並区：この間、施行者会の方々には振り返る会や個別の意見交換会の結果振り返る会や個別の団体との意見交換の結果をまとめた上でお伝えしている。このあと区のHPにも載せて、会に参加されない方にもしっかりお伝えしていく。区長が申し上げた通り、この間の皆さんとのやりとりはしっかり透明性をもってやっていきたい。施行者の方々にもこうした意見が区民から、学校関係者から出されているということは伝わっている。今後事務的なやりとりをしていくにあたっては、そういう声が出ていることをリアルにお伝えしていくことも必要。それは事務方としてやらせていただく。最終的にトップ同士で話す機会があれば区長から話をするようになる。

○参加者：A街区の使い方について、できる範囲で今後議論できる可能性があると理解した。区長が前から、女性やフリーターの方々が増えるような SOHO みたいな働く場所を増やしていきたいと、そういうのも一つの公共財の使い方だと思う。そういう使い方も考えながら、単に体育館、ホール、図書館、区役所の移転というだけでなく、夢のある話をしてほしい。

○参加者：区政 40 周年の動画を職員の皆さんに見てほしい。いかに住民と行政が一緒になって公民館をつくってきたかとか、まさにこれが岸本区長のもとで行われているんだと感動した。区がつくった広報ビデオのアーカイブ。

○参加者：40 年前みんなでがんばったじゃない。住民自治、基本条例を作った、児童館をつくって、給食自校方式に、区の職員と一緒にがんばった。

○参加者：区政 40 周年の動画の最後で「区長のやるべき仕事は、住民の安全と安心のために私は働いているんです」と発言している。

(区長あいさつ)

A街区の未来を話していくためにも、今ある条件の中での最善の進み方で前に進まなければいけない。その先にあるのは、A街区をどうしたいかという話を区民と一緒に始めたいというのが私の思いです。それをしないと、白紙に戻すとか言わない限り、どこかで決着をつけないとこの話ができないというのが正直なところです。単に白黒ではなく、防災や、教育的な機能の一部をA街区に残せるとしたらどうするかという話は、今何ができるかということの一つと理解したことが今日獲得できたことだったと思う。一方で、皆さんと違う考えをもつ方にとっても明らかでなければならぬというのが難しいところ。それを今から考えるということ、学校を二つに分けることも含めて考えようといったことを、区として責任をもって発言するのは大変難しい。全部がらがらぼんでなんでもありという、百人百様の意見が今から出てきて、まとめ上げていくということが、現実的にそれだけの時間も力も、今の私にあると思えないし、区役所の中に無尽

蔵な時間と人がいるわけではないというのも含めてきちんと発信しなければいけないと思う。今日獲得できたことは変わらないし、それは今までの積み上げがあったからここまでこれた。しかるべきタイミングで、今までの様々な意見を総合して、どのように進んでいくのかという道を示したいと思う。

○参加者：区長は、133号線予定地を反対する会と一緒に歩いてくれた。今案を考えているところだが、阿佐ヶ谷北東地区のあの辺を区長も一緒に実際に歩いてもらい、先ほども夢のあるプランが出たが、どんなプランがあるかを住民側からいろいろ出し合って話し合う会を、年明けにつくりたい。そのときは是非区長に来ていただきたい。改めて呼びかけをしたい。是非いらしてください。一緒にやっていきたいです。

その他